

駅弁等の消費期限偽装防止対策などについて回答を受ける

申9号（J R 東海子会社による駅弁等の消費期限偽装 に関する申し入れ）の回答

本部は本日、申9号（J R 東海子会社による駅弁等の消費期限偽装に関する申し入れ）について窓口で回答を受けました。これは「J R 東海の子会社・ジェイアール東海パッセンジャーズが消費期限を意図的に遅らせて偽装した弁当などを販売した」などとの報道に基づき、事実関係の解明と偽装防止対策などを求めたものです。

会社はJ R 東海労の申し入れに対し「J R 東海の事象ではない」「業務委員会の付議事項ではない」などとして業務委員会の開催を拒んできました。しかし「これは安全問題であること」「子会社で発生した事象とはいえ、利用者に直接対応するのはJ R 東海の社員であること」などから、J R 東海労は再三にわたり業務委員会で議論するよう要求してきました。しかし会社の姿勢は全く変わらないため、業務委員会の不開催について対立を確認したうえで窓口で回答を受けたものです。

申9号と会社回答は以下のとおりです。

《申9号と会社回答》

1. 消費期限を偽装した商品が製造された工場、販売ヶ所、個数を明らかにすること。

【回答】

事象が発覚した本年2月21日分の弁当について、ジェイアール東海パッセンジャーズの東京、名古屋、淀川、摂津の4工場で製造された約5万食のうち、社内で規定した消費期限を逸脱した商品数は1万6,800食であった。

販売箇所は東海道新幹線と一部在来線特急列車の車内及び東京駅、品川駅、新横浜駅、名古屋駅、京都駅、新大阪駅の同社の弁当販売店舗である、と聞いている。

2. なぜ消費期限を偽装する必要があったのか、明らかにすること。

【回答】

ジェイアール東海パッセンジャーズでは、平成17年4月に弁当の製造に際し、多くの食材を使用し質の良いものをできるだけ早くお客様に召し上がっていただくために、消費期限の見直しを行った。愛知万博開催を契機に製造数が増加したことなどからこの平成17年4月頃を節目に、消費期限オーバーとなる製造の前倒しが行われたものと考えている、と聞いている。

3. 報道によれば「偽装は1年以上前から恒常的に行われていた」というが、これが事実なのか、またいつから偽装が始まったのか、明らかにすること。

【回答】

ジェイアール東海パッセンジャーズが保管し、把握できる記録の調査、歴代工場関係者からの聞き取り調査により、平成17年4月以降において前倒し作業が常態化したものと考えられる、と聞いている。

4. J R東海パッセンジャーズの4工場の工場長は、全員不正を認識していたと報道されている。食の偽装の発表が続いていたのであるから、もっと早い段階で不正行為にけじめをつけることができたと思う。なぜ早期に不正を止めることができなかったのか、明らかにすること。

【回答】

ジェイアール東海パッセンジャーズでは、従前より、商品や入荷食材の消費期限チェックの徹底を行ってきたが、結果として工場において前倒しして製造していることを把握できなかったことは、工場と本社との意思疎通が充分でなかったことによることが大きかったと考えられる、と聞いている。

5. 2月21日偽装が判明したのだから、21日製造分で消費期限を偽装した商品は回収すべきだったと思う。なぜ回収しなかったのか、明らかにすること。

【回答】

事象が判明した21日は、衛生管理基準として「30℃で18時間の細菌検査」を実施していることと併せて、当日の気温が最高でも14℃以下であったことなどから、自主回収を行わなかった、と聞いている。

6. 消費期限偽装の再発防止策を明らかにすること。

【回答】

食品の安全に関わる規程の遵守等について、長期安定的に万全を期していくため、ハード、ソフト両面での対策を実施する、と聞いている。具体的には①消費期限印字ラベル発行機の改良、②店舗等における弁当等販売システムの改良③ ①②の仕組みが定着するまでの間は、弁当等の種類や製造数量を抑制しつつ、チェック体制を組んで消費期限厳守に万全を期す④本社で工場での作業実態を十分把握し、製造工程などを十分チェックするとともに、注文と製造の両サイド間及び本社・工場間の意思疎通強化を図る

7. この偽装問題に関するJ R東海の見解、J R東海パッセンジャーズに対してどのような措置をとるのか、あるいはとったのか、明らかにすること。

【回答】

当社（J R東海）では、例えば夏場やノロウィルスの発生など、食中毒発生の恐れが想定される時期に定期的な注意喚起、点検などを繰り返し実施してきた。加えて、世間で食品衛生の問題が発生した都度、グループ会社に対して注意喚起を行ってきたと同時に、関連する事項の総点検を実施させ報告を受けていた。そういった

中で、株式会社ジェイアール東海パッセンジャーズにおける今回の事象はお客様の信頼を裏切る行為であり、遺憾に考えている。

今回の事態を重大に受け止め、２度とお客様の信頼を裏切ることのないよう、本社・工場間の連携を強める取り組みなど、具体論を共有しながら同社を指導する考えである。

以 上